中央地区恒例の年納め
世代間交流もちつき大会開催!!

大手公民館で12月25日、恒例の「世代間交流もちつき大会」が開かれました。中央地区町会連合会、社会福祉協議会中央地区支会、福祉ひろば事業推進協議会主催で会場にはガンズ君、甲冑アルプちゃん、つむぎちゃんも登場。松本山雅のメンバーも協力し、子ども100人を含む3世代175人が参加し交流を深めました。

もち米22キロを蒸し、6臼に分けてもちつきを行い、最初に正面玄関ホールに飾る鏡餅用を役員がつきました。子どものもちつきでは、1人10回ずつ杵を振り上げ、力を込めてついていました。子どもたちは、山雅のガチャさんのリードで、杵を振り上げ、声をそろえて10回ついたら、並んで待つ次の人と交代。元力士の宇留賀響さんが、2本の杵を両手に持ち、つきながら臼を一回りして歓声を浴びていました。参加した高野城二さん（10歳）は「昨年より強くつけた。来年も頑張る」とのこと。きなこ、ゴマ、餡で包んだ餅を試食後「伸びておいしかった」とにっこり。

作業終了後の臼と杵が、ボランティアガイドの案内で通りかかったカナダからの観光客の目に留まり、大喜びする場面もありました。

栗田幸一町会連合会長は「松本山雅のスタッフの協力で、子どもたちも地域の人たちも毎年楽しみにしている」と話していました。

宮川　美津子

アルプちゃんたちも応援

お手伝いの皆さん感謝です!!

老舗熟練の手さばきで、もちをこねる

大勢の住民で賑わいました!

豪華３種のもちの完成!

立派な門松！地域住民の手で完成！

大手公民館は12月24日、中央地区町会長、有志7人が参加し、玄関に飾る門松作りを行いました。雨模様でしたが、事前に集めた真竹、稲わら、杉、松、梅、南天などの材料を、玄関前のテントの下に並べ、作業を開始。

門松作りは、初代公民館長の藤田久夫さん（84歳）が、父親のそばで見て覚えたと言う技術で始め、22年目を迎えたとのこと。藤田さんの指示で直径10センチの竹を1組3本の束にして、切り口には節を入れ、笑顔になるようにそぎ切りにし、梅の花の形に結んだ縄で飾りつけました。竹の切り口にカンナをかけたり、濡れた縄で磨いてつやを出したりしたほか、ペール缶にはわらを巻き、編み飾っていました。藤田さんの手さばきを見守り、参加者も挑戦する場面がありましたが難しい作業が多かったようです。土を入れた缶に竹を立て、杉、松、南天、梅などを飾り、豪華な門松飾り一対が正面玄関に飾られました。

藤田さんは「皆さんの協力で続けられ『伝統行事』と言われるようになった。今後はアドバイザーとして参加したい」と話していました。

大手公民館長の遠藤彰さん（65歳）は「地域の皆さんに立派な門松を見に来て頂き、今年も大勢が楽しく集える場所として利用してもらいたい」と話していました。

宮川　美津子

立派な門松の完成!!

地域の皆さんの見事な手さばき

ふれあい健康教室
クリスマスコンサート

12月18日、男声合唱団クール・ビアの皆様によるクリスマスコンサートが開催されました。

創立35周年を迎えたベテラン合唱団21人のおじ様たちがおそろいのイエローカラーのブレザーで来てくれました。

指揮とピアノは小松幸恵さん、4つのパートによるきれいなハーモニーで、やなせたかしの詩によるメルヘンチックな歌や、昔懐かしい歌、クリスマスソングなど15曲以上歌ってくださいました。

最後は会歌でしょうか、生ビールの歌でした。

練習後の「生」は格別でしょうね。

ぜひ、また美しいハーモニーを聞かせてください。

澤田　昭子

男声合唱団クール・ビアの皆さん

長元坊 チョウゲンボウ

私の父方の祖母は愛知県に住んでおり、年に何度か会いに行きます。会えない時は電話で近況報告をしますが、数年前から私の電話代を気遣ってくれ、電話代のかからないLINE電話をしてくれるようになりました。八十代になってからスマートフォンデビューし、周りの人に使い方を聞きながら、たどたどしいながらもメッセージや花壇の写真を送ってくれます。ガラケーを使いこなしているとはいえなかった祖母が、スマートフォンという新しいものに挑戦してまで孫と電話をしたいと思ってくれたことが嬉しかったです。一時期は、施設に入っている祖父と、寝る前に電話をする習慣があったそうです。施設の食事や野球の話などをしていたと言っていました。孫として、とてもほほえましく思いました。

祖母は、昨年あたりから物忘れが始まり、電話していても思うように言葉が出てこないことが増えてきました。「話すのが遅くてごめんね」と言うのですが、私は申し訳なく思ってほしくありません。「気にしていないよ」とは伝えますが、本当にそう思っていると伝わっているのかな、ほかにもっと良い言い方はないのかなと、後々考えることもあります。物忘れのもどかしさという祖母自身にしか分からない感覚に、寄り添い方をしているのか、変な寄り添い方をしていないか。解決しないもやもやした悩みです。

毎日が忙しく過ぎていく私の生活の中で、とつとつと話す祖母との電話は時間がゆっくりと流れます。この時間は私にとって大切なものになりました。仕事の話だとか、恋愛話や施設にいる祖父の話だとか、ちょっとした近況報告で笑いあうことを、これからも続けていきたいと思います。

杉江　夏実

私の履歴書
watashi no rirekisyo
vol.11
鷹匠町
簑輪　徹朗

この歳になると、どうしようもないのかな。今回の編集会議でもう最後かな、と思い「私の履歴書」書きます、と言ってしまった。この前書いたんじゃない！と言われたと思うが、記憶力も柔軟性も喪失？そのまま今となってしまった。調べてみると、昨年同じ題名で書いているのが分かった。だいぶ日も過ぎてしまい「困った困った」と苦にしていたが、少し違う視点で紙面を割かせていただきたいと思う。

出生地鹿児島県出水18年、東京8年、上田45年、松本は16年目である。

上田市での現役生活を退いたら、お城があり四季折々北アルプスが美しい松本に住みたいと思っていた。

ただ松本には友人が一人もいない。まず友達を作らなければと思い、「平成21年度シニア大学（老人大学）」で1年、「いきいき実践塾」で1年を過ごした。大学は講義を聞くのが主流、塾は自分たちで発案企画、行動、まとめ、発表、という形式であった。当時、市町村合併が叫ばれている中で自主独立を貫いた麻績村の村長さんにグループで会いに行ったのも思い出される。

この学校と塾の生徒の皆さんは、人生の中で自分の仕事をやり終え、また学びたいという人たちでみんな前向きであった。各地の旧所名跡へのバス旅行が想い出される。卒業して15年になるが、この中の数人とは昼食会や夕食会の交流が続いている。

地域の関連では公民館長会、松本神社総代会の役員を仰せつかり、生え抜きでもない私は当時困ってしまったが、今となってみればいい経験をさせていただいた、と思っている。

日常生活では何といっても毎朝のラジオ体操である。世間話に華を咲かせ大笑いし、誕生日の人がいたら、みんなで大声を出して「ハッピーバースデイ」を歌う（早起きの観光客が笑いながら見ている）、これが心身共に爽やかさを保つ秘訣では、と思うこの頃である。

追記　私の旧姓は佐賀であったが、事情あって昭和46年に妻側の姓である簑輪を引き継いでいる。